

【様式】 第2号の1～4－②
専門学校

様式第2号の1-②【(1)実務経験のある教員等による授業科目の配置】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の1-①を用いること。

学校名	晃陽看護栄養専門学校
設置者名	学校法人晃陽学園

1. 「実務経験のある教員等による授業科目」の数

課程名	学科名	夜間・通信制の場合	実務経験のある教員等による授業科目の単位数又は授業時数	省令で定める基準単位数又は授業時数	配置困難
専門課程	管理栄養士学科（新課程）	夜・通信	12 単位	12 単位	
	管理栄養士学科（旧課程）	夜・通信	12 単位	12 単位	
	栄養士学科	夜・通信	6 単位	6 単位	
	調理師学科	夜・通信	120 時間	80 時間	
	グランシェフ学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	パティシエ・スイーツ学科	夜・通信	90 時間	80 時間	
医療専門課程	助産学科	夜・通信	90 時間	80 時間	
	看護学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
	救急救命学科	夜・通信	180 時間	160 時間	
	歯科衛生士学科	夜・通信	240 時間	240 時間	
（備考） 管理栄養士学科は令和5年4月1日付教育課程変更のため、1.2学年は新課程、3.4学年は旧課程での実施となる。					

2. 「実務経験のある教員等による授業科目」の一覧表の公表方法

刊行物にて公表。各学科教務室に備え付け閲覧可能。必要に応じて複写配布。

3. 要件を満たすことが困難である学科

学科名
(困難である理由)

様式第2号の2-①【(2)-①学外者である理事の複数配置】

※ 国立大学法人・独立行政法人国立高等専門学校機構・公立大学法人・学校法人・準学校法人は、この様式を用いること。これら以外の設置者は、様式第2号の2-②を用いること。

学校名	晃陽看護栄養専門学校
設置者名	学校法人 晃陽学園

1. 理事（役員）名簿の公表方法

刊行物にて公表。各学科教務室に備え付け閲覧可能。必要に応じて複写配布。

2. 学外者である理事の一覧表

常勤・非常勤の別	前職又は現職	任期	担当する職務内容 や期待する役割
非常勤	会社代表取締役・医師	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	法人の会計 運営全般の確認
非常勤	会社取締役	2023. 4. 1～ 2025. 3. 31	法人の会計 運営全般の確認
(備考)			

様式第 2 号の 2－② 【(2)-②外部の意見を反映することができる組織への外部人材の複数配置】

※ 様式第 2 号の 2－①に掲げる法人以外の設置者（公益財団法人、公益社団法人、医療法人、社会福祉法人、独立行政法人、個人等）は、この様式を用いること。

学校名	
設置者名	

1. 大学等の教育について外部人材の意見を反映することができる組織

名称	
役割	

2. 外部人材である構成員の一覧表

前職又は現職	任期	備考（学校と関連する経歴等）
（備考）		

様式第 2 号の 3 【(3)厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表】

学校名	晃陽看護栄養専門学校
設置者名	学校法人 晃陽学園

○厳格かつ適正な成績管理の実施及び公表の概要

1. 授業科目について、授業の方法及び内容、到達目標、成績評価の方法や基準その他の事項を記載した授業計画書(シラバス)を作成し、公表していること。	
(授業計画書の作成・公表に係る取組の概要)	
10～11 月頃	教育課程（案）の内容について検討
12 月頃	教務委員会にて審議
1 月	授業計画の決定
翌年 4 月	授業計画（シラバス）の公表
授業計画書の公表方法	刊行物にて公表。各学科教務室に備え付け、閲覧可能。必要に応じて複写配布。
2. 学修意欲の把握、試験やレポート、卒業論文などの適切な方法により、学修成果を厳格かつ適正に評価して単位を与え、又は、履修を認定していること。	

(授業科目の学修成果の評価に係る取組の概要)	
<ul style="list-style-type: none"> ・単位の認定は、授業時間数の3分の2以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価はA・B・C及びDの評語をもって表し、C以上を合格とする。(学科によっては、S・A・B・C・Dをもって表し、C以上を合格とする。)それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を、不合格の者は再試験を受けることができる。 	
3. 成績評価において、GPA等の客観的な指標を設定し、公表するとともに、成績の分布状況の把握をはじめ、適切に実施していること。	
(客観的な指標の設定・公表及び成績評価の適切な実施に係る取組の概要)	
<p>履修科目の成績評価を点数化し、全科目の合計点の平均化を算出する。(100点満点で点数化) 指標の数値は、～59点、60～69点、70～79点、80～89点、90～100点の5段階に区分し、下位1/4に該当する人数と指標の数値を算出する。</p>	
客観的な指標の算出方法の公表方法	刊行物にて公表。各学科教務室に備え付け、閲覧可能。必要に応じて複写配布。
4. 卒業の認定に関する方針を定め、公表するとともに、適切に実施していること。	

(卒業の認定方針の策定・公表・適切な実施に係る取組の概要)

学校の教育目標

- ①専門職業人としての倫理観を持ち、主体的学習と自発的態度を培う。
 - ②社会の変化に対応できる視野をもち、多様な価値観、ニーズを理解する能力を身につける。
 - ③専門的知識と判断能力・問題解決能力を身につけ、的確な実践力を養う。
- 以上の目標に基づき、年度ごとに各学科の具体的重点目標を定めているが、基本事項として専門的知識・技術の修得、社会人としての人間形成、国家試験合格を達成できる人物を目指す。

卒業の要件及び判定の基準は以下の通り。

- ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。
- ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。
- ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。

卒業の認定に関する
方針の公表方法

刊行物にて公表。各学科教務室に備え付け、閲覧可能。必要に応じて複写配布。

様式第2号の4-②【(4)財務・経営情報の公表（専門学校）】

※専門学校は、この様式を用いること。大学・短期大学・高等専門学校は、様式第2号の4-①を用いること。

学校名	晃陽看護栄養専門学校
設置者名	学校法人 晃陽学園

1. 財務諸表等

財務諸表等	公表方法
貸借対照表	事務局に備え付け・閲覧 必要に応じて複写・配布
収支計算書又は損益計算書	事務局に備え付け・閲覧 必要に応じて複写・配布
財産目録	事務局に備え付け・閲覧 必要に応じて複写・配布
事業報告書	事務局に備え付け・閲覧 必要に応じて複写・配布
監事による監査報告（書）	事務局に備え付け・閲覧 必要に応じて複写・配布

2. 教育活動に係る情報

①学科等の情報

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
衛生		専門課程	管理栄養士学科				○	
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
4 年	昼	130 単位時間／単位	98 単位時 間/単位	8 単位時 間/単位	19 単位時 間/単位	5 単位時 間/単位	単位時間 /単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
160 人		66 人	0 人	17 人	21 人		38 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	

卒業・進級の認定基準
(概要) ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。
学修支援等
(概要) クラス担任制を設け、補講を実施し学習支援を行う。

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 (自営業を含む。)	その他
5 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (80%)	1 人 (20%)
(主な就職、業界等) 病院・給食委託会社・地方自治体・学校			
(就職指導内容) 面談を希望職種・希望者ごとに対応。エントリーシートの添削、模擬面接の実施。 少人数のため、細かく面倒を見ている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 管理栄養士（国家資格）			
(備考)（任意記載事項） 令和5年4月1日、学則変更のため、1・2学年は新課程での実施。 3・4学年は旧課程での実施となる。			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
52 人	0 人	0%
(中途退学の主な理由)		
(中退防止・中退者支援のための取組) 年度初めに個別面談を行い、担任・教員との信頼関係を構築し、相談を受けやすい環境を作る。悩みを抱える学生や学校生活に支障をきたしている学生については、話し合いの場を設ける他、保護者と連携を密にとるよう心がけている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	栄養士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	66 単位時間／単位	47 単位時 間/単位	2 単位時 間/単位	12 単位時 間/単位	4 単位時 間/単位	1 単位時 間/単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
100 人		57 人	0 人	13 人	9 人	22 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） クラス担任制を設け、補講を実施し学習支援を行う。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
25 人 (100%)	0 人 (0%)	20 人 (80%)	5 人 (20%)
（主な就職、業界等） 給食委託会社、病院、福祉施設、保育所、認定こども園			
（就職指導内容） 就職ガイダンスの実施。学校に企業を数社招き、会社説明会を開催			
（主な学修成果（資格・検定等）） 栄養士免許、栄養教諭二種免許状			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
56 人	5 人	9%
（中途退学の主な理由） 進路変更・体調不良		
（中退防止・中退者支援のための取組） 年度初めに個別面談を行い、担任・教員との信頼関係を構築し、相談を受けやすい環境を作る。悩みを抱える学生や学校生活に支障をきたしている学生については、話し合いの場を設ける他、保護者と連携を密にとるよう心がけている。		

分野		課程名	学科名	専門士		高度専門士	
衛生		専門課程	調理師学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	960 単位時間／単位	540 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	420 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		12 人	0 人	4 人	6 人	10 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） 実習ノートの提出と添削、放課後の技術指導。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
9 人 (100%)	0 人 (0%)	6 人 (67%)	3 人 (33%)
（主な就職、業界等） 料理店、集団調理、ホテル			
（就職指導内容） 求人票の開示と面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） 調理師免許（国家資格）、サービス接客検定 3 級、専門調理師学科試験受験資格 全調教実技検定グレード 1			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
9 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席の多い学生については、保護者との連絡を密にし、状況により個別面談や三者面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	グランシェフ学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	1920 単位時間／単位	870 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1050 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		15 人	0 人	0 人	0 人	0 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） 実習ノートの提出と添削、放課後の技術指導。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
4 人 (100%)	0 人 (0%)	4 人 (100%)	0 人 (0%)
(主な就職、業界等) 料理店、ホテル			
(就職指導内容) 求人票の開示と面談			
(主な学修成果（資格・検定等）) 調理師免許（国家資格）、レストランサービス技能検定 3 級、サービス技能検定 3 級 専門調理師学科試験受験資格、全調教実技検定グレード 1・2			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
10 人	1 人	10%
(中途退学の主な理由) 学力不振		
(中退防止・中退者支援のための取組) 欠席の多い学生については、保護者との連絡を密にし、状況により個別面談や三者面談を行っている。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
衛生		専門課程	パティシエ・スイーツ学科				
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
1 年	昼	930 単位時間／単位	426 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	504 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
40 人		9 人	0 人	3 人	17 人	20 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） 実習ノートの提出と添削。長期休暇中や放課後に欠席授業補講の実施。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
8 人 （ 100%）	5 人 （ 63%）	3 人 （ 37%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） パン・菓子店、ホテル、製造			
（就職指導内容） 求人票の開示と面談			
（主な学修成果（資格・検定等）） 製菓衛生師受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
8 人	0 人	0%
（中途退学の主な理由）		
（中退防止・中退者支援のための取組）		

分野		課程名	学科名		専門士		高度専門士	
医療		医療専門課程	助産学科					
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類					
			講義	演習	実習	実験	実技	
1 年	昼	1010 単位時間／単位	420 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	540 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	
			単位時間／単位					
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数		総教員数	
20 人		17 人	0 人	2 人	30 人		32 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） 個別面談等により、学修の進捗状況に応じた指導をする。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
17 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	17 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）
（主な就職、業界等） 病院			
（就職指導内容） カウンセリングの実施			
（主な学修成果（資格・検定等）） 助産師（国家資格）受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
20 人	3 人	15%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 保護者を交えた面談を数回実施。実習先との連絡・相談を密にする。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	看護学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	3055 単位時間／単位	2065 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	990 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
240 人		152 人	0 人	9 人	67 人	76 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） 担任の学生指導業務として、成績状況の把握と、定期的または状況に応じて、不定期に面談を行っている。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
64 人 （ 100%）	0 人 （ 0%）	60 人 （ 94%）	4 人 （ 6%）
（主な就職、業界等） 病院			
（就職指導内容） 就職案内パンフ等の閲覧場所の設置、進路相談担当教諭を置き、就職に関する悩み相談、面接、履歴書の記入などの指導を行っている。			
（主な学修成果（資格・検定等）） 看護師（国家資格）受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
187 人	15 人	8%
（中途退学の主な理由） 進路変更、体調不良、学力不振		
（中退防止・中退者支援のための取組） 欠席の多い学生については、保護者への協力依頼をし、保護者、学生、教員との三者面談を実施している。		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	救急救命学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
2 年	昼	2205 単位時間／単位	1080 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	1125 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
80 人		67 人	0 人	7 人	6 人	13 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） 履修方法など学業に関するサポートはもちろん、学生生活や人間関係についての悩みなど学生一人ひとりの相談にも対応している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
28 人 （ 100%）	1 人 （ 3%）	22 人 （ 79%）	5 人 （ 18%）
（主な就職、業界等） 消防本部、医療施設関係、福祉介護施設・学校			
（就職指導内容） 公務員試験に伴う対応（面接、小論文対策、体力試験対策）			
（主な学修成果（資格・検定等）） 救急救命士（国家資格）受験資格			
（備考）（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
72 人	5 人	7%
（中途退学の主な理由） 進路変更		
（中退防止・中退者支援のための取組） 個人面談による学業継続指導		

分野		課程名	学科名	専門士	高度専門士		
医療		医療専門課程	歯科衛生士学科	○			
修業 年限	昼夜	全課程の修了に必要な総 授業時数又は総単位数	開設している授業の種類				
			講義	演習	実習	実験	実技
3 年	昼	2441 単位時間／単位	936 単位時間 ／単位	154 単位時間 ／単位	1351 単位時間 ／単位	単位時間 ／単位	単位時間 ／単位
			単位時間／単位				
生徒総定員数		生徒実員	うち留学生数	専任教員数	兼任教員数	総教員数	
120 人		94 人	0 人	5 人	41 人	46 人	

カリキュラム（授業方法及び内容、年間の授業計画）	
（概要） 10～11 月頃 教育課程（案）の内容について検討 12 月頃 教務委員会にて審議 1 月 授業計画の決定 翌年 4 月 授業計画（シラバス）の公表	
成績評価の基準・方法	
（概要） ・単位の認定は、授業時間数の 3 分の 2 以上の出席者に対し、授業科目ごとに行う学科試験及び実習等の評価によって行う。 ・授業科目の評価は、科目担当責任者が行う。担当講師が複数の場合は、科目担当責任者又はその学科の主たる教諭がその任にあたる。 ・授業科目の評価は A・B・C 及び D の評語をもって表し、C 以上を合格とする。（学科によっては、S・A・B・C・D をもって表し、C 以上を合格とする。）それぞれの点数については別に定める。 ・合格した授業科目について単位を与える。 ・病気その他やむを得ない事由により試験を受けることができなかった者は追試験を不合格の者は再試験を受けることができる。	
卒業・進級の認定基準	
（概要） ・学校長は、所定の課程を修了し、全科目の単位を修得した者について、教員会議を経て卒業認定を行う。 ・学校長は、卒業を認定した者に対し、卒業証書を授与する。 ・欠席日数が各学科の定める日数を越える者については、卒業を認めない。	
学修支援等	
（概要） 履修方法など学業に関するサポートはもちろん、学生生活や人間関係についての悩みなど、学生一人ひとりの相談にも対応している。	

卒業生数、進学者数、就職者数（直近の年度の状況を記載）			
卒業生数	進学者数	就職者数 （自営業を含む。）	その他
22 人 (100%)	0 人 (0%)	19 人 (86%)	3 人 (14%)
(主な就職、業界等) 歯科医院・学校			
(就職指導内容) 就職案内パンフレット等の閲覧場所の設置、就職に関する悩み相談、面接、履歴書の記入などの指導を行っている。			
(主な学修成果（資格・検定等）) 歯科衛生士（国家試験）受験資格			
(備考)（任意記載事項）			

中途退学の現状		
年度当初在学者数	年度の途中における退学者の数	中退率
84 人	3 人	4%
(中途退学の主な理由) 体調不良、成績不振、進路変更		
(中退防止・中退者支援のための取組) 進学希望者については休学をしながら、将来について検討してもらう。（1～2 カ月に一度連絡をして様子を確認）。常に学生の様子に気を配る。場合によっては面談を行う。		

②学校単位の情報

a)「生徒納付金」等

学科名	入学金	授業料 (年間)	その他	備考（任意記載事項）
管理栄養士学科	200,000 円	600,000 円	600,000 円	(実習費・施設費)
栄養士学科	200,000 円	480,000 円	557,000 円	(実習費・施設費)
調理師学科	170,000 円	360,000 円	470,000 円	(実習費・施設費・維持費)
グランシェフ学科	170,000 円	360,000 円	470,000 円	(実習費・施設費・維持費)
パティシエ・スイーツ学科	200,000 円	480,000 円	480,000 円	(実習費・施設費)
助産学科	200,000 円	1,000,000 円	700,000 円	(実習費・施設費)
看護学科	200,000 円	480,000 円	420,000 円	(実習費・施設費)
救急救命学科	200,000 円	480,000 円	520,000 円	(実習費・施設費)
歯科衛生士学科	200,000 円	480,000 円	220,000 円	(実習費・施設費)
修学支援（任意記載事項）				

b) 学校評価

自己評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ掲載 (https://www.koyo-gakuen.ac.jp)		
学校関係者評価の基本方針（実施方法・体制） 企業、地域住民、卒業生、保護者などの学校関係者で評価委員会を構成し、教育理念、学校運営、教育活動、学生指導、学修成果、学生支援、教育環境、学生募集、財務、法令、社会貢献の項目に対する自己評価の結果を基に評価してもらい、現状の把握と今後の改善点等を明確にし、学校運営に役立てる。		
学校関係者評価の委員		
所属	任期	種別
会社社長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	企業関係
飲食店経営者	2023. 4. 1～2025. 3. 31	企業関係
市公共施設会長	2023. 4. 1～2025. 3. 31	地域住民
自営業	2023. 4. 1～2025. 3. 31	地域住民
飲食店勤務	2023. 4. 1～2025. 3. 31	卒業生
学校関係者評価結果の公表方法 (ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ掲載 (https://www.koyo-gakuen.ac.jp)		

第三者による学校評価（任意記載事項）

c) 当該学校に係る情報

(ホームページアドレス又は刊行物等の名称及び入手方法) ホームページ掲載 (https://www.koyo-gakuen.ac.jp)
